

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 : 平成19年1月1日

(2)調査対象期間 : 平成18年10月～12月期の実績および平成19年1月～3月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各30社、計150社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回答率
商業+食品業部会	30社	19社	63.3%
水産業部会	30社	24社	80.0%
機械工業部会	30社	17社	56.7%
建設業部会	30社	20社	66.7%
観光・サービス業+諸業部会	30社	18社	60.0%
合計	150社	98件	65.3%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－業況は依然マイナス水準で推移－

1. 全体の動き(業況)

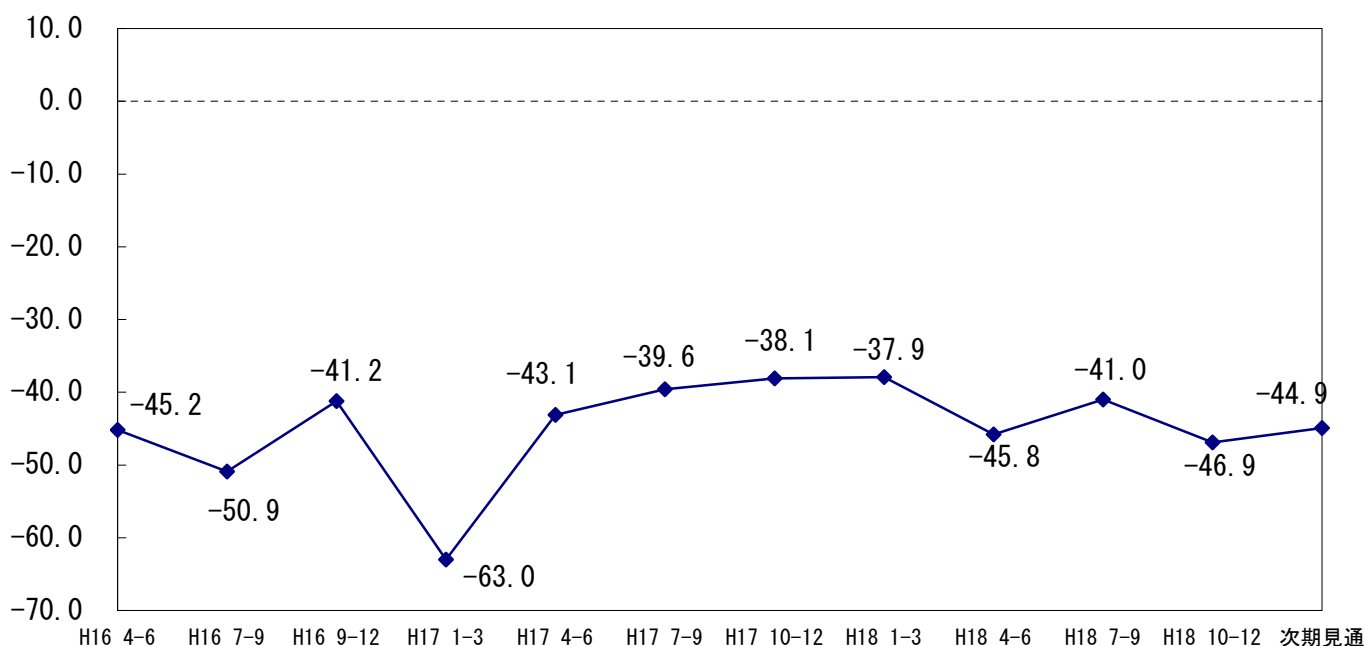
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成18年10月～12月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では△46.9**と前回調査時の△41.0より**5.9ポイント悪化**しました。前期は小幅ながらもポイントを回復させ年末の繁忙期を迎える今期に期待されましたが、依然、持ち直しの動きには停滞がみられ、市内経済を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いています。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前期△59.1→今期△52.6]、水産業[前期△32.0→今期△41.7]、機械工業[前期△25.9→今期△52.9]、建設業[前期△30.0→今期△35.0]、観光・サービス・諸業[前期△60.9→今期△55.6]となりました。前期に持ち直しの動きがみられた機械・工業では大幅にDI値を悪化させ、また、年末商戦において回復が期待された商業・食品業においても厳しい状況が続いています。

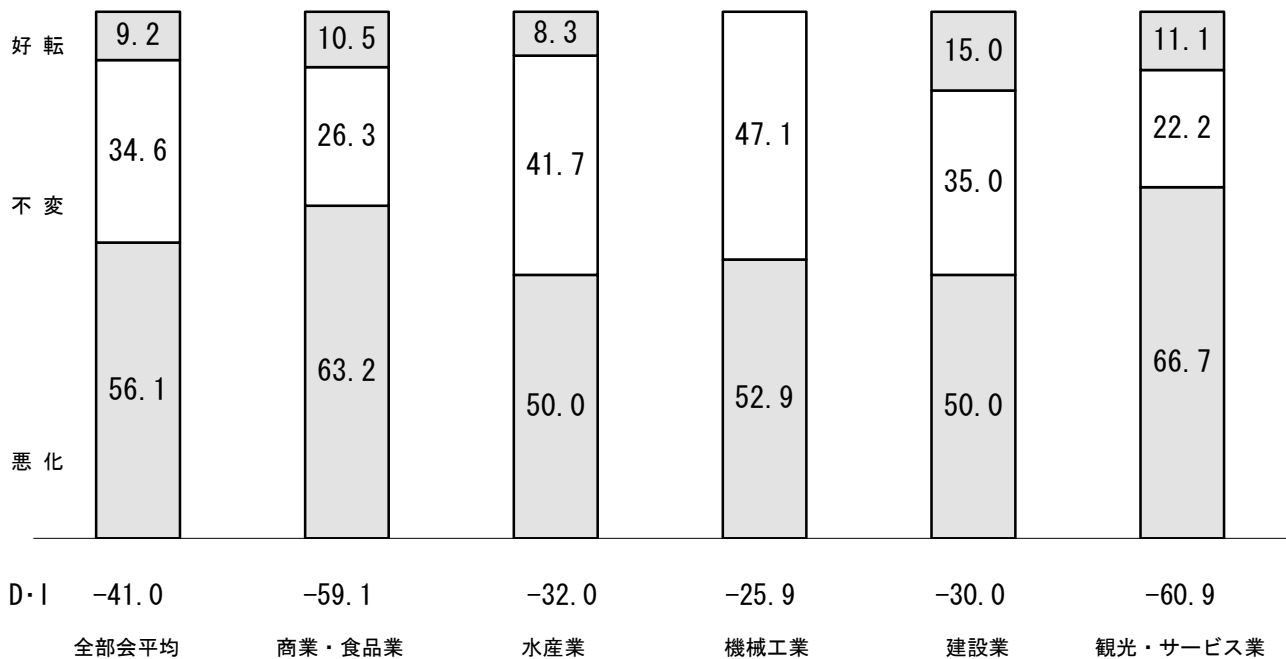
来期(平成19年1月～3月)については、今期と比べて**業況判断DIが2.0ポイント改善**するとの見通しですが、**依然状況は厳しい**との声が多く寄せられています。札幌圏を中心に景気は「緩やかに改善している」という数値が出ていますが、当市を含む地方の小都市では今しばらくマイナス水準で推移するものと思われます。

業 況 推 移 (全業種平均D・I)

前年同期比



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、石油製品の高騰は一息ついたものの、**材料・仕入単価の上昇による負担増**を訴える声が多く寄せられているほか、**民間需要の停滞**を訴える声が寄せられています。また、金融機関の貸し出し姿勢は緩やかながらも、**金利負担の増加**を訴える声が数多く寄せられています。

このような中、地元産業の育成強化のため**行政と民間が一体**となった取り組みを求めるとともに、市内全店で扱える**地元商品の開発**を求める声も寄せられています。設備投資については、前期同様、依然慎重な動きが続いています。

■部会別の動向

【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比） Δ 52.6（前期 Δ 59.1、来期見通し Δ 52.6）〕

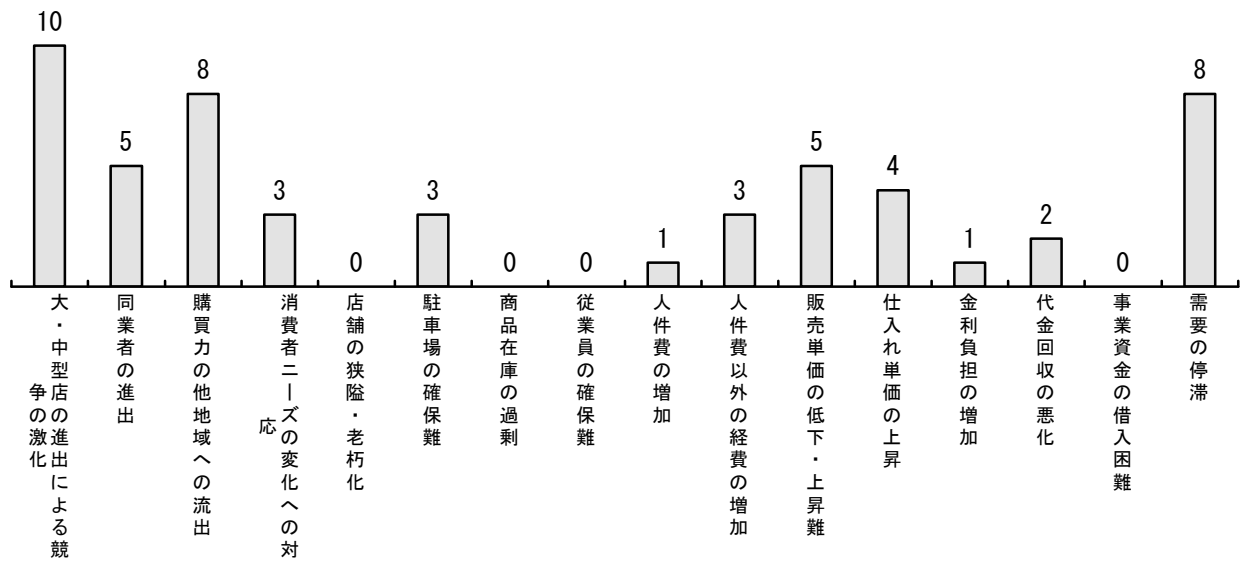
業況DI値（前年同期比）は、5期連続で大幅なマイナス値となり、依然厳しい状況で推移しております。暖冬の影響から冬物・防寒商品の動きが鈍く苦戦が見られたほか、クリスマス・年末年始の商戦においても期待された客数が戻らず、予想を下回る結果となっています。来期の見通しも今期と同様、慎重な意見が多く寄せられています。

経営上の問題点としては「大・中型店との競争の激化」「需要の停滞」「購買力の他地域への流出」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・街区の異業種店の閉店等。（小売）
- ・人口減による購買の低下。（燃料小売）
- ・後継者問題。（製造小売）

経営上の問題点（商業・サービス業部会）



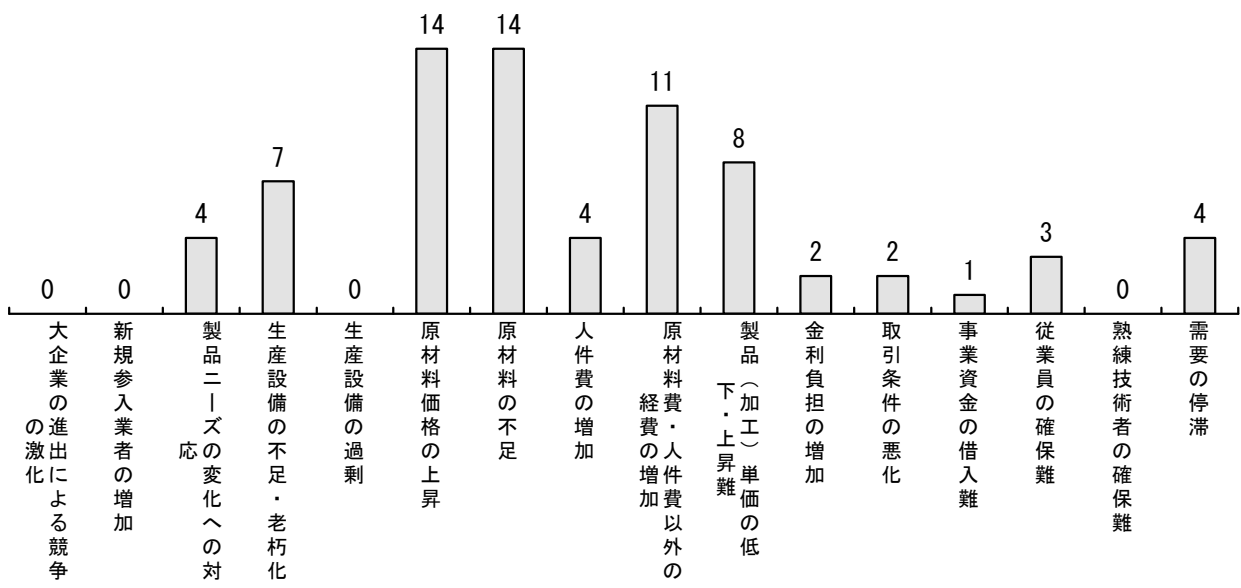
【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△41.7（前期△32.0、来期見通し△29.2）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前期の△32.0から9.7ポイント大幅に悪化しました。原料不足を訴える声と暴風波浪による漁具への被害、さらには来年以降の漁獲への影響を懸念する声が寄せられています。来期の見通しは今期と比較し12.5ポイント回復するとの寄せられており、当市の期間産業として今後の回復が期待されます。

《業界の問題点等》

- ・ 原材料の不足。（水産加工）
- ・ 原料の確保が困難になってきている。（水産加工）
- ・ 飽食の時代、我々小企業は難しい時代です。（水産加工）
- ・ 来年の漁獲量が心配される。（水産加工）

経営上の問題点（水産業部会）

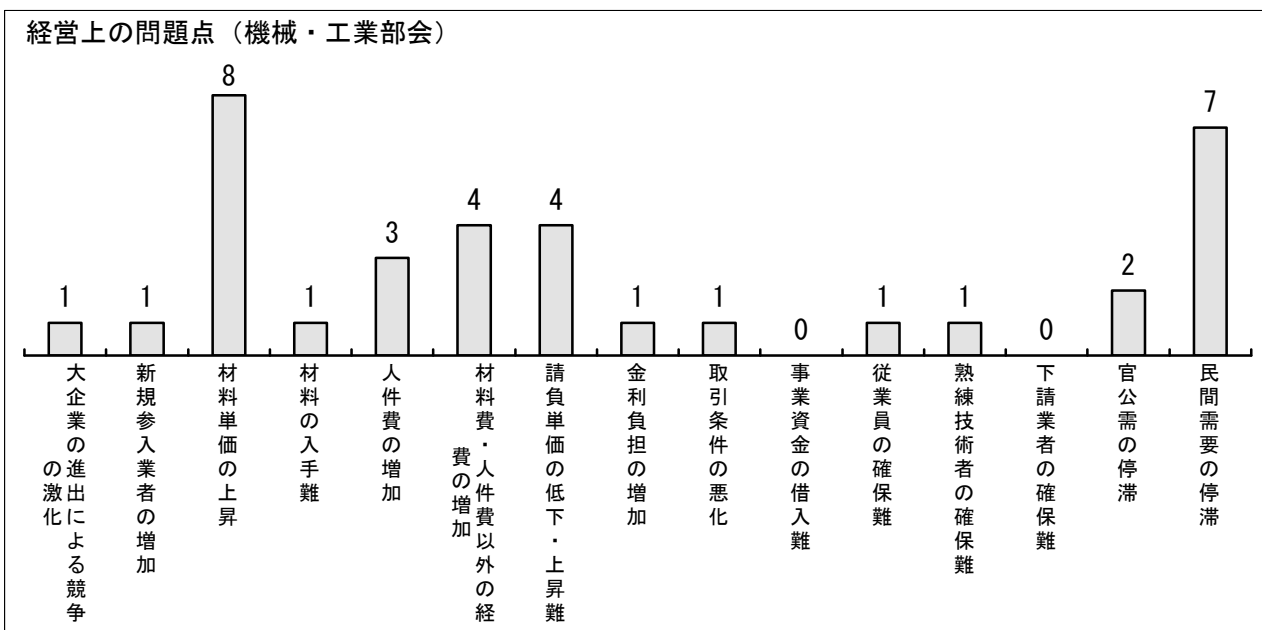


【機械・工業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）△52.9（前期△25.9、来期見通し△29.4）]

前期まで緩やかながら4期連続で回復してきた業況判断DI値（前年同期比）ですが、今期は前期比で27.0ポイント大幅に悪化しました。売上DIが△70.6と際だって悪化しており、民間需要の停滞を訴える声が多く寄せられています。経営上の問題点として、材料費の高騰を訴える声が多く寄せられている他、市内の経済規模縮小を懸念する声も寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・技術、生産性、仕事の内容そのものとあらゆる面で変革が求められている。（印刷）
- ・官公需を含む地元経済の縮小の影響をものに受けてしまう。（印刷）
- ・酪農家・畑作農家の生産量の規制が継続され、また生産物単価が下落する方向で推進している。特に、所得補償制度に移行すると生産限度数量外は売れない、又は2分の1以下の価格での販売となる。農家の戸数減・所得減が見られ、関連業界は厳しい状況に進む。（機械修理）



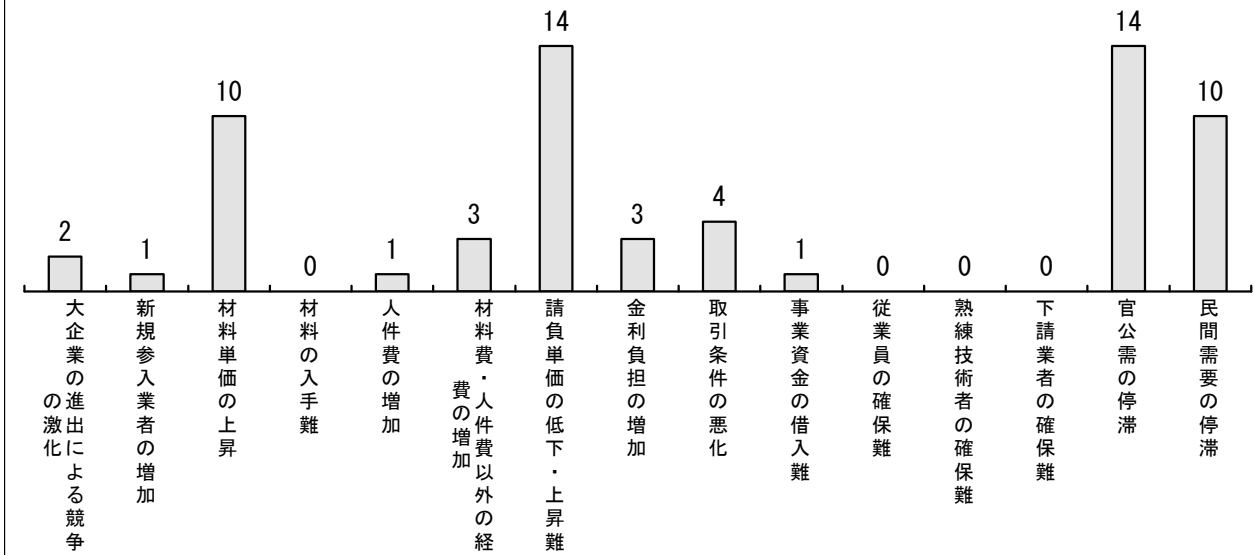
【建設業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）△35.0（前期△30.0、来期見通し△55.0）]

業況判断DI値（前年同期比）は3期連続で回復が続いてきましたが、今期は前期比で5ポイントの悪化となりました。公共工事の発注が少ない中で価格競争も激しくなっており、来期の見通しは業況DI△55.0、売上DI△60.0と、非常に厳しいものとなっています。

《業界の問題点等》

- ・行政が地元企業を育てるという姿勢を明確にして頂きたい。ダンピング業者による市場価格の下落が著しい。（建築）
- ・資材の値上がり、原油の値上がりなどで利幅がうすい事。（電気工事）

経営上の問題点（建設業部会）



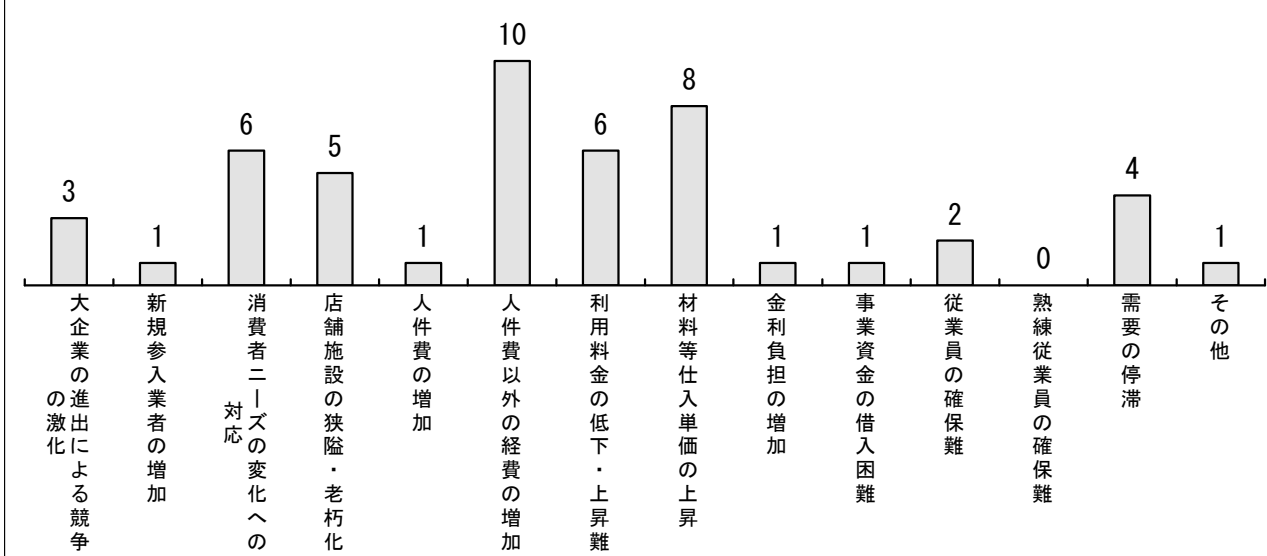
【観光・サービス部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△55.6（前期△60.9、来期見通し△61.1）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前期より5.3ポイント小幅ながら2期連続で改善しました。しかしながら来期は流水を中心とした冬季観光期を迎えるにもかかわらず、再び慎重な見通しとなっております。人口減の影響から需要の減少と並んで労働力を確保することの難しさを訴える声も多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・横の繋がりが無いと思います。業界が一つにまとまり全店で取扱いできるようなブランドを立ち上げるべきです。（飲食店）
- ・お客様が喜んでくれる様に努力するのみです。（美容）
- ・深夜勤務の従業員の確保が難しい。（飲食店）
- ・高齢者の客で若者の客をつかむのは難しい。（美容）
- ・太平洋戦争を考え、どんなに落ちるところまで落ちてでも忍耐と努力で立ち直れると思います。甘えを捨て、不況を足場にチャンスを待つ。努力に勝る思索なし。（運送）
- ・人口減少につき、益々悪化の傾向。（理容）
- ・取引先の減少（その他）

経営上の問題点（観光・サービス業部会）



2. 今期の動向

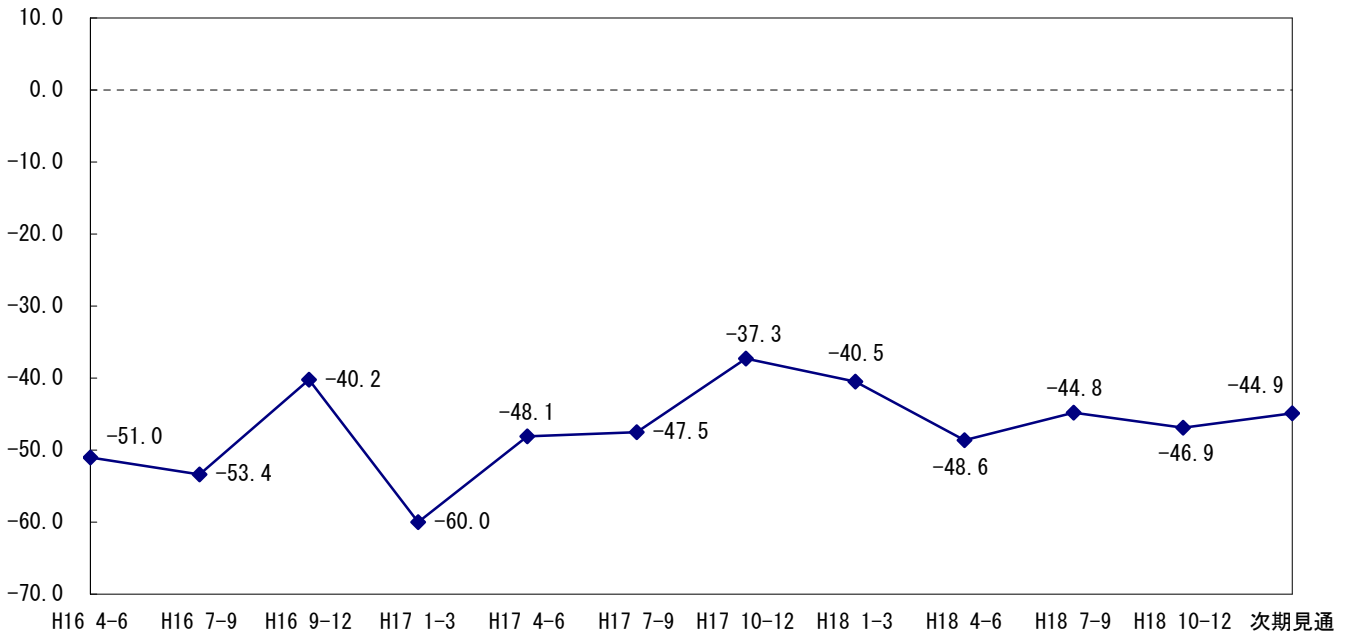
(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 17 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の売上高）

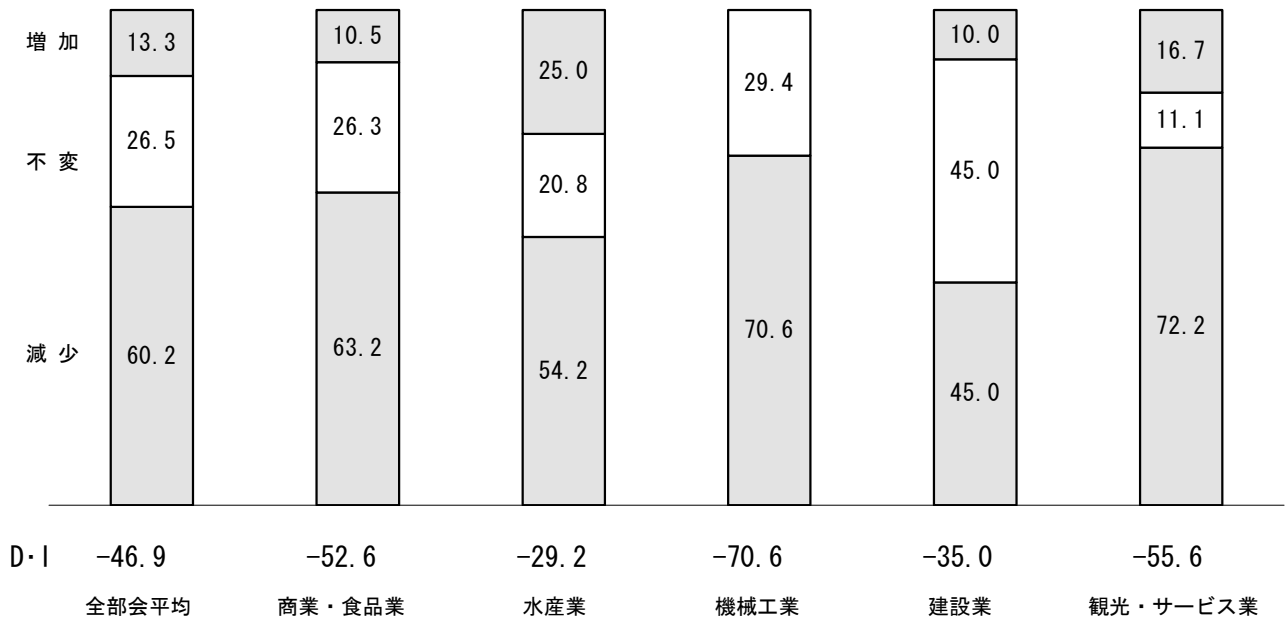
売上状況 （全業種平均 D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



今期の売上高・生産高（前年同期比）

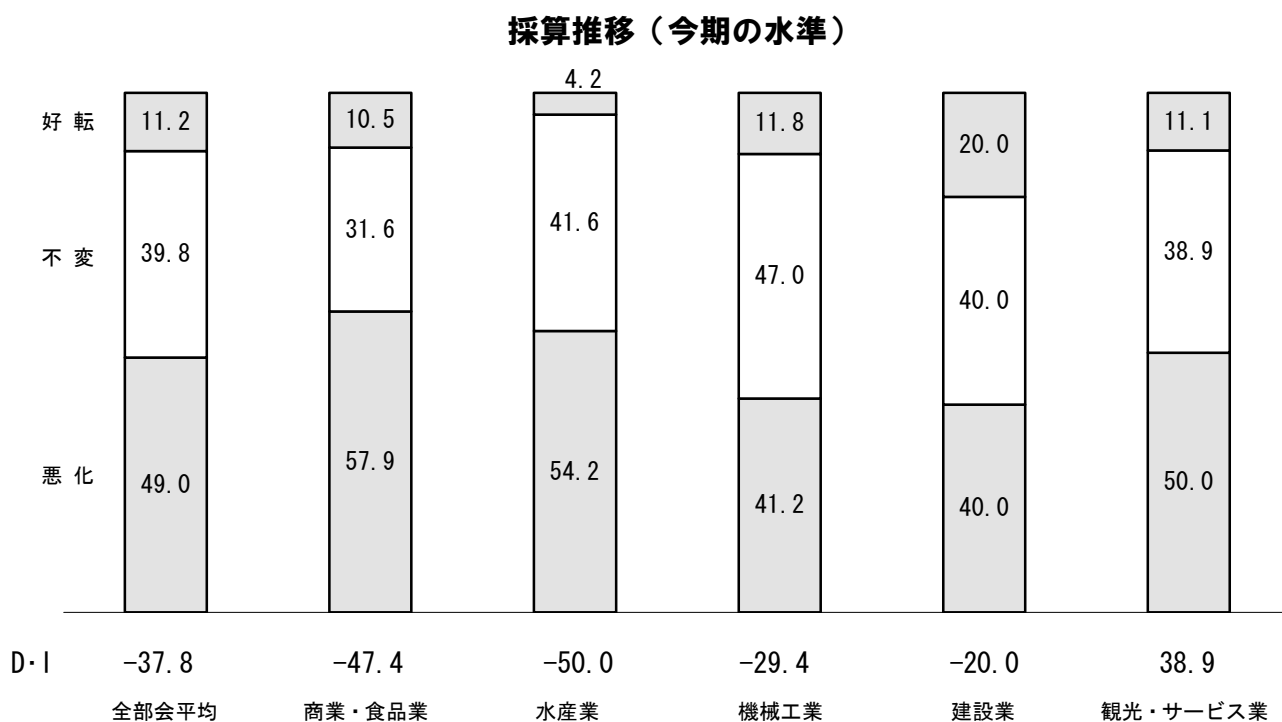
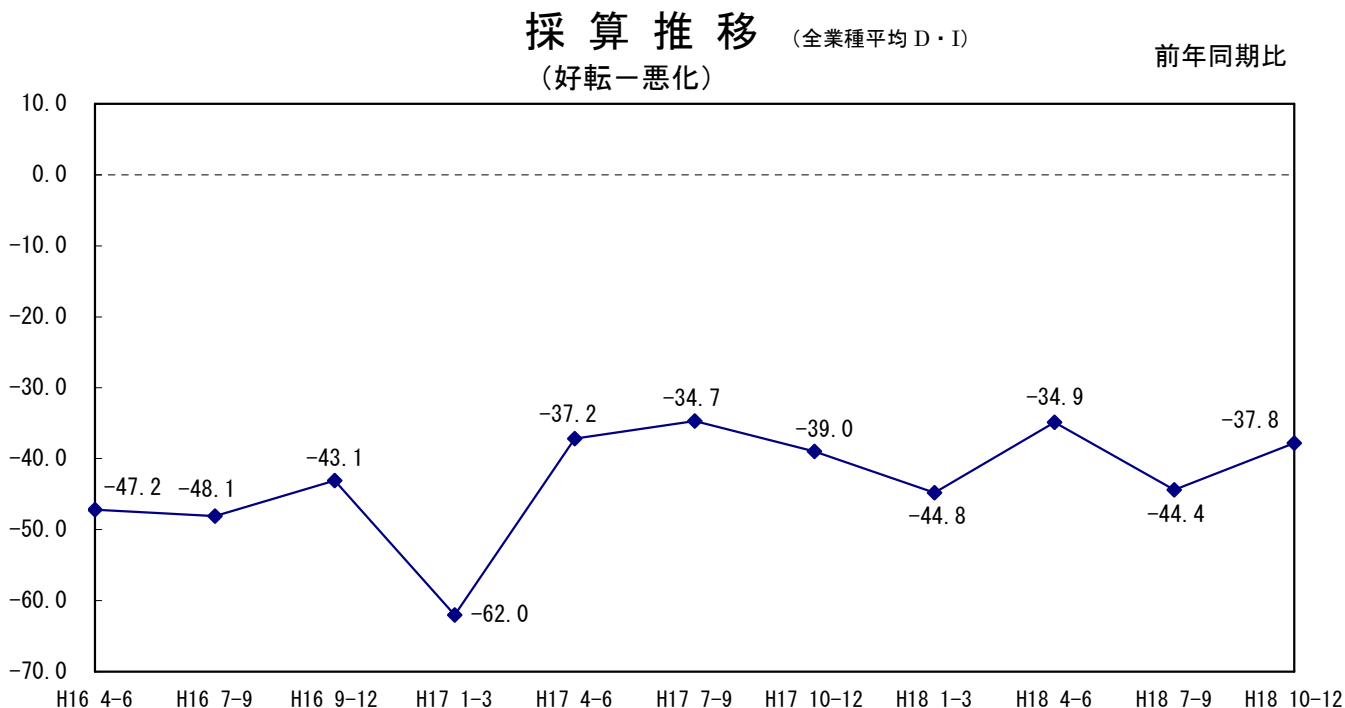


全業種平均で DI 値△46.9〔前回調査時（平成 18 年 7～9 月期△44.8）より 2.1 ポイント悪化〕 来期は 2.0 ポイント回復の見込み。

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回△59.1→△52.6〕、水産業〔前回△44.0→△29.2〕
 機械工業〔前回△29.7→△70.6〕、建設業〔前回△35.0→△35.0〕
 観光・サービス業〔前回△59.1→△55.6〕

(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 17 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の採算水準）

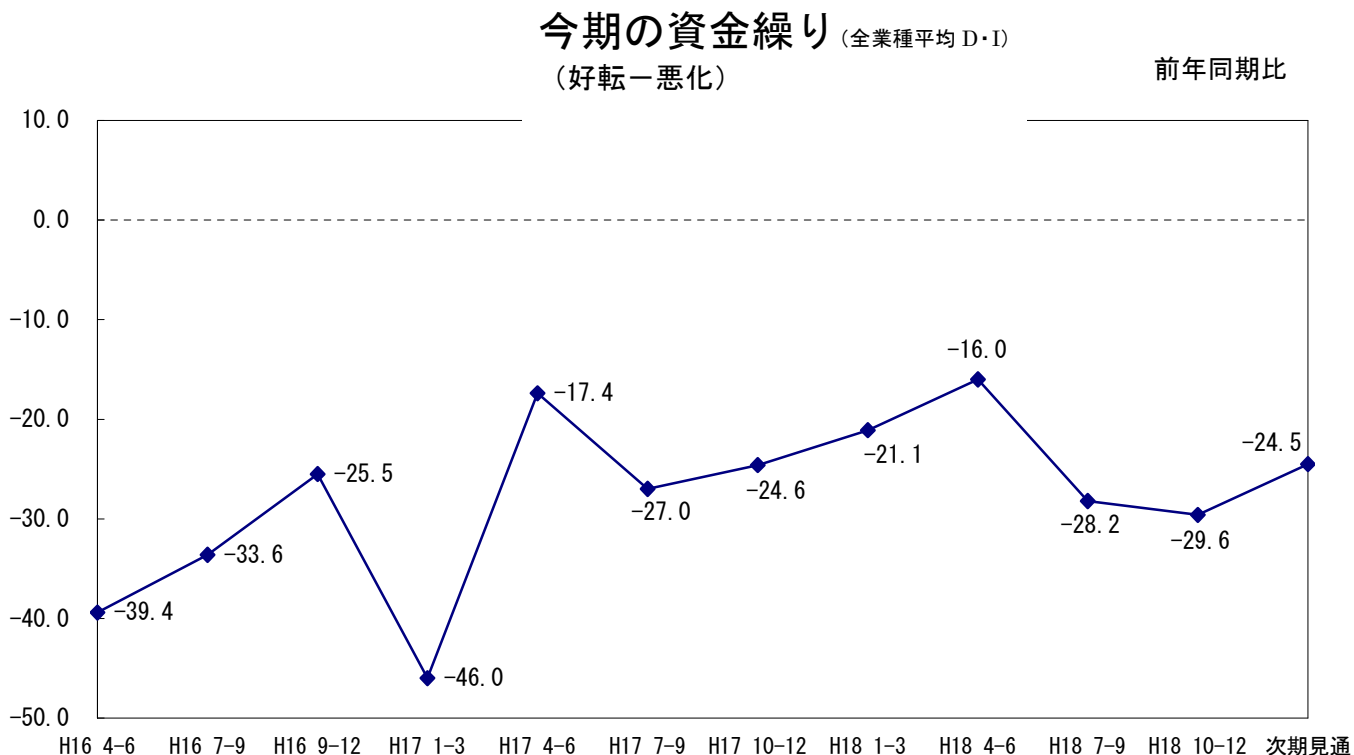


全業種平均で DI 値△37.8〔前回調査時（平成 18 年 7～9 月期△44.4）より 6.6 ポイント改善〕

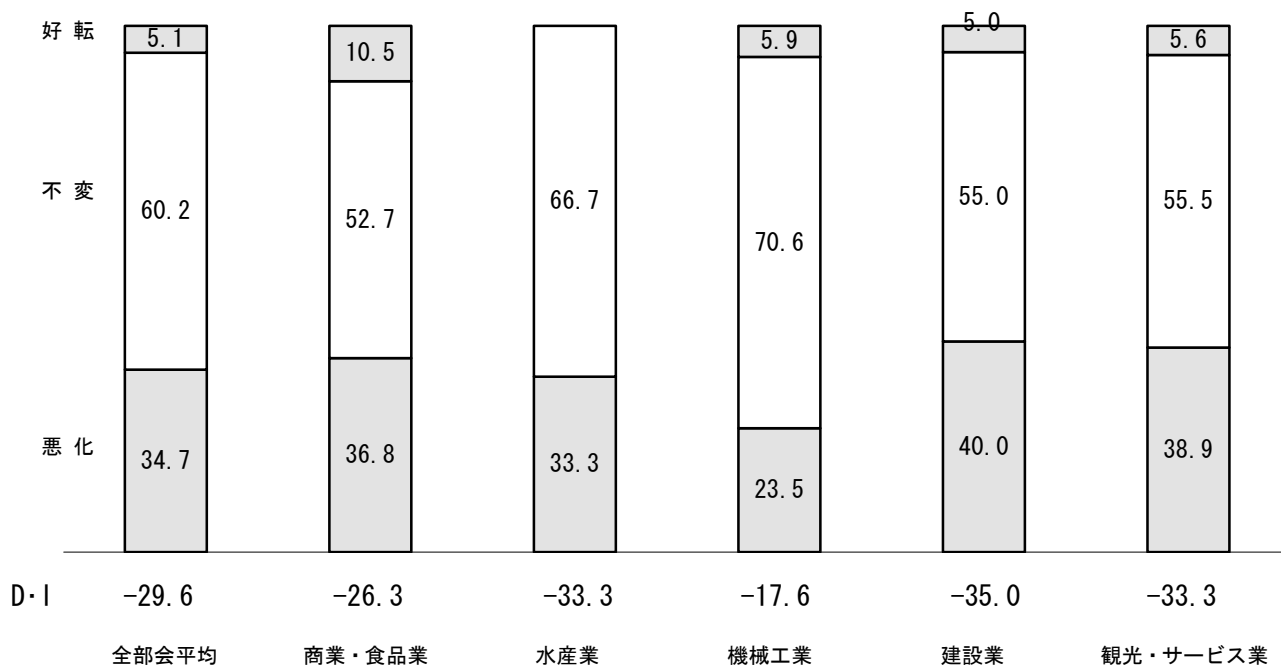
〔部会別 DI 値〕
 商業・食品業〔前回△36.4→△37.8〕、水産業〔前回△52.0→△47.7〕
 機械工業〔前回△37.1→△29.4〕、建設業〔前回△40.0→△20.0〕
 観光・サービス業〔前回△56.6→△38.9〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】(平成 17 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の資金繰り)



今期の資金繰り (前年同期比)



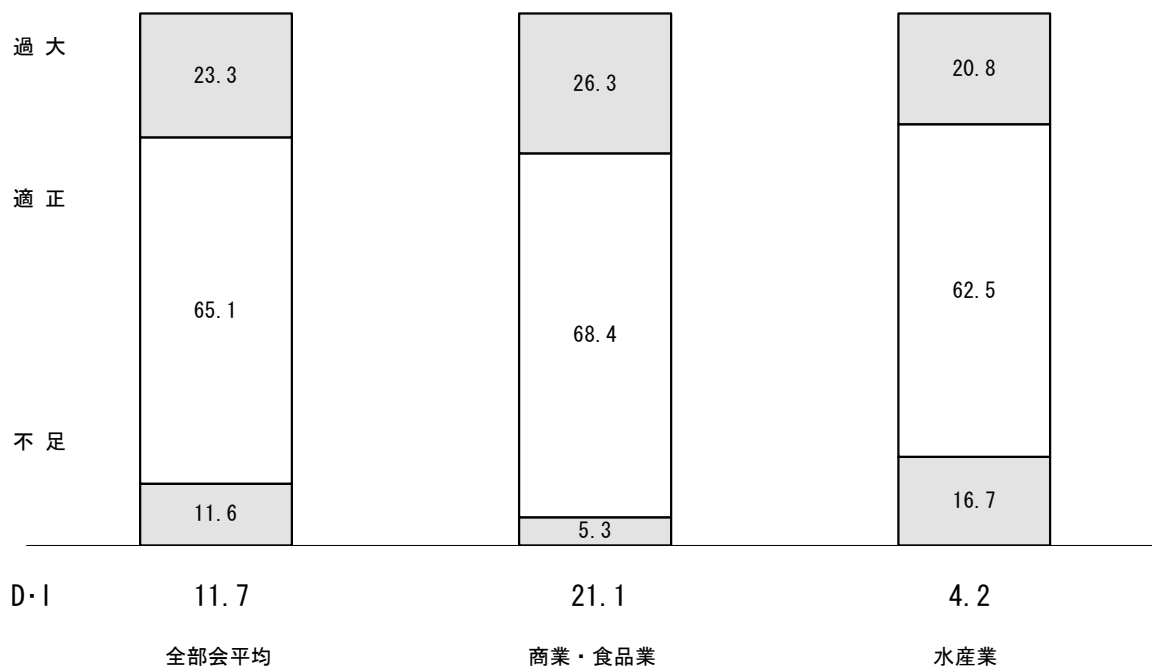
全業種平均で DI 値△29.6〔前回調査時(平成 18 年 7～8 月期△28.2)より 1.4 ポイント悪化〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回△50.0→△26.3〕、水産業〔前回△20.0→△33.3〕
 機械工業〔前回△ 3.7→△17.6〕、建設業〔前回△20.0→△35.0〕
 観光・サービス業〔前回△52.2→△33.3〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 17 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



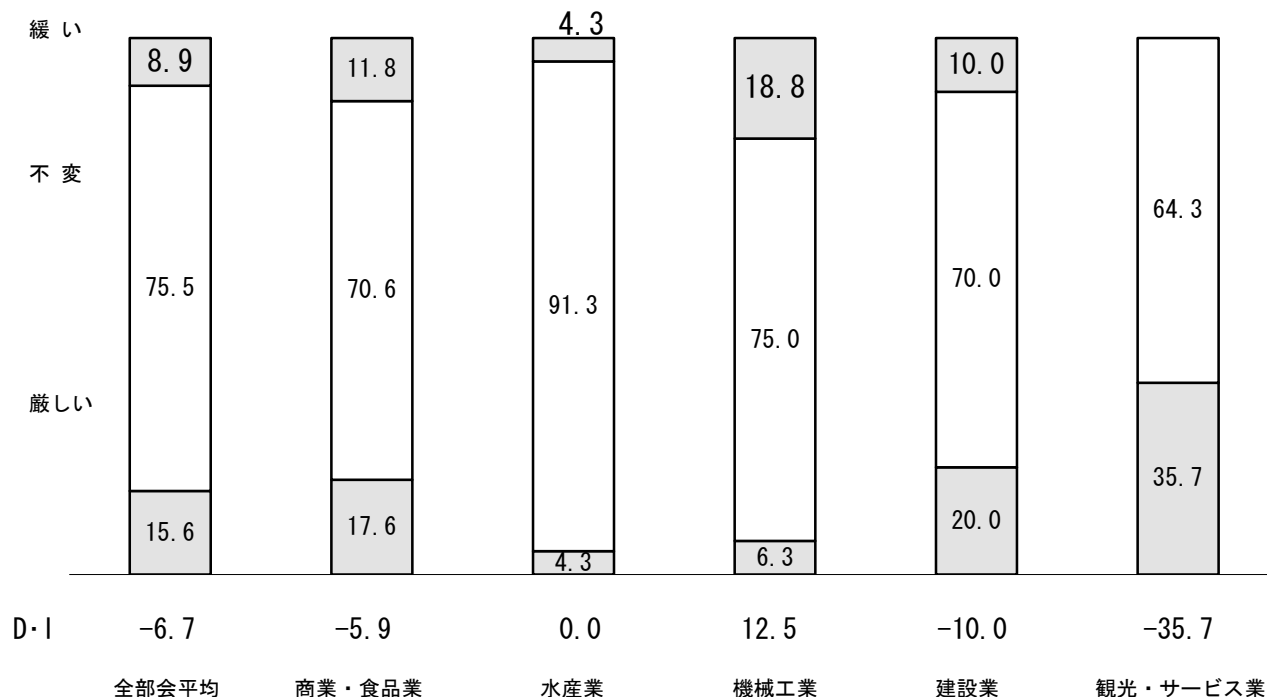
全業種平均で DI 値 11.7〔前回調査時（平成 18 年 7～9 月期 4.3）より 7.4 ポイント在庫過剰〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前回 18.2→21.1〕、水産業〔前回△8.0→4.2〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 17 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

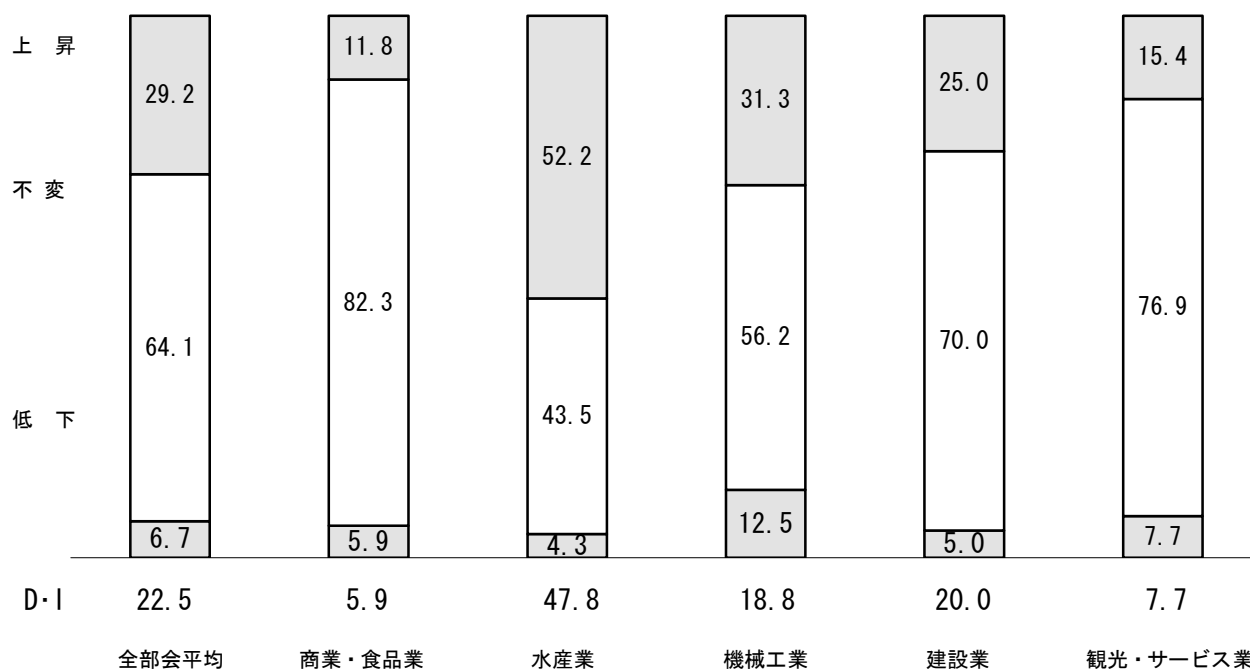
今期の金融機関の貸出姿勢



(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成 17 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

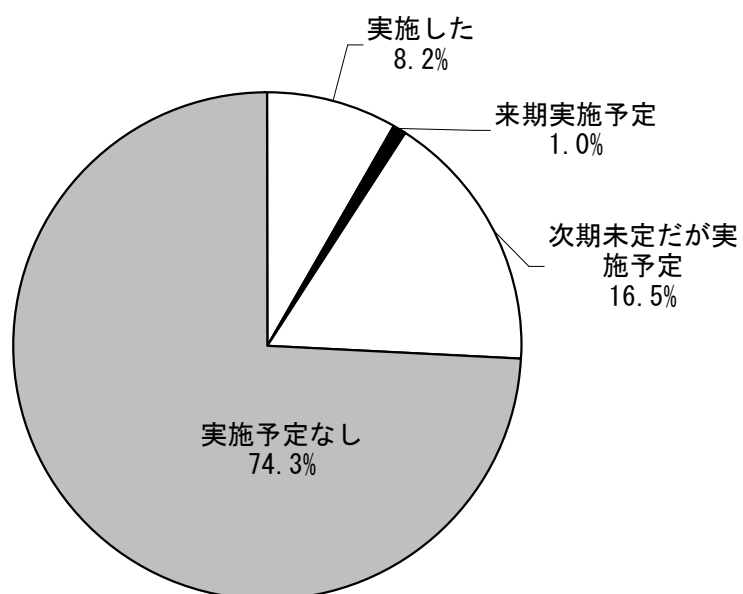
今期の借入金の金利水準



(7)設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

設備投資の実施状況



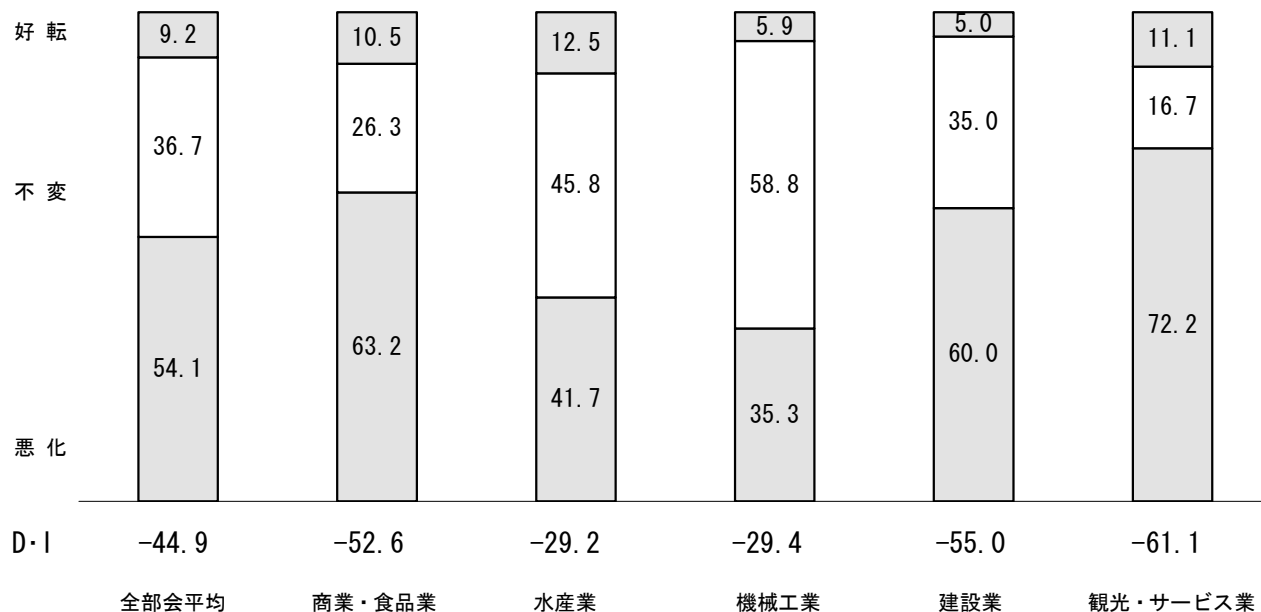
質問事項	回答数	%
1. 実施した	8	8.2%
2. 来期実施予定	1	1.0%
3. 次期未定だが実施予定	16	16.5%
4. 実施予定なし	72	74.3%
合計	97	100.0%

3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成 18 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

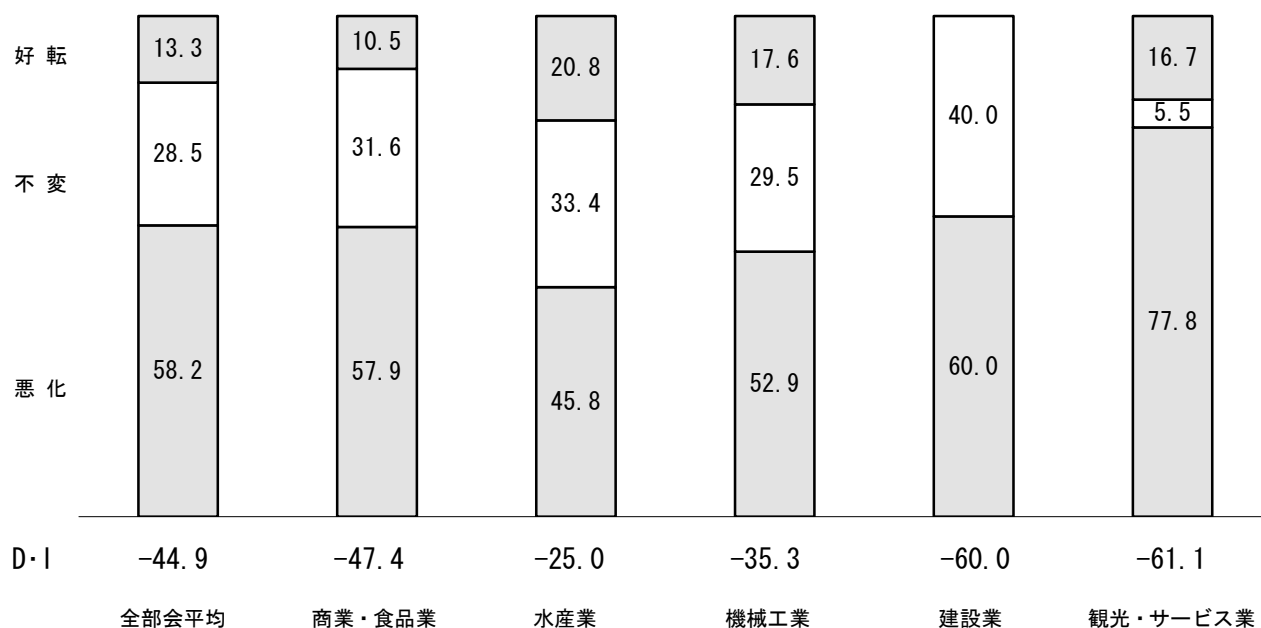


全業種平均 DI 値△44.9 [今期の業況（前年同期比△46.9）より 2.0 ポイント回復の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 18 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

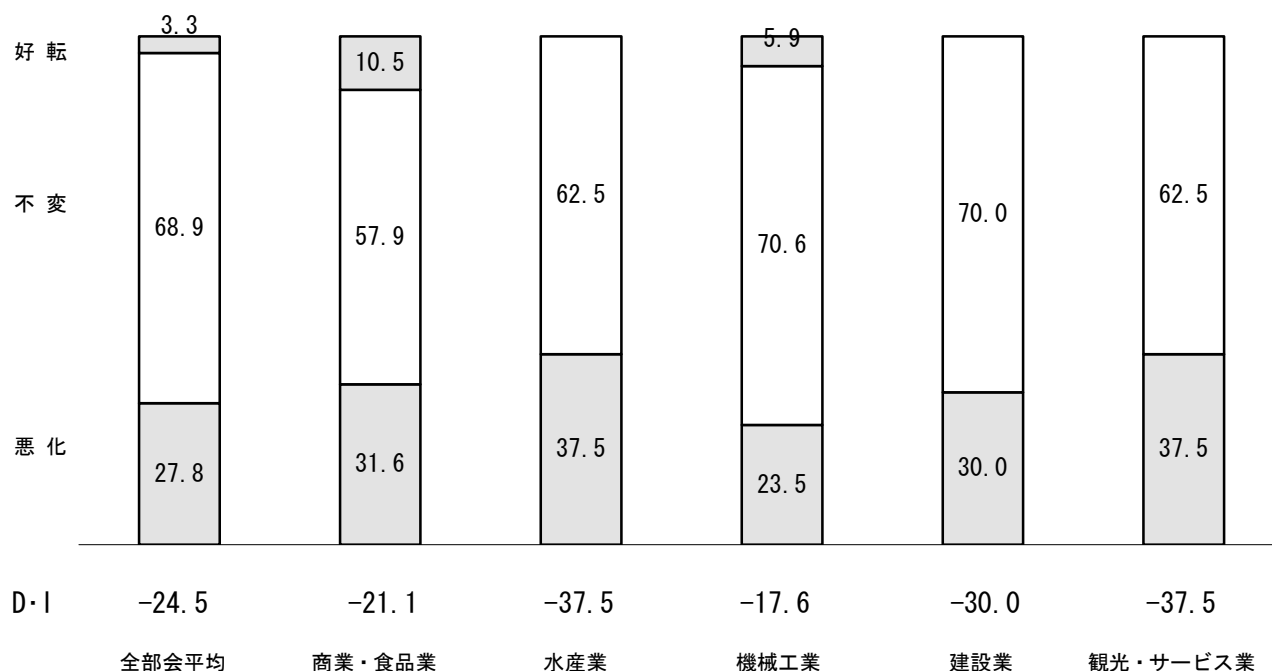


全業種平均 DI 値△44.9 [今期の売上高・生産高（前年同期比△46.9）より 2.0 ポイント回復の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 18 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値△24.5 [今期の資金繰り（前年同期比△29.6）より 5.1 ポイント改善の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス 入 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	△46.9	△52.6	△41.7	△52.9	△35.0	△55.6
	来期見通し	△44.9	△52.6	△29.2	△29.4	△55.0	△61.1
売上 D・I	今期実績	△46.9	△52.6	△29.2	△70.6	△35.0	△55.6
	来期見通し	△44.9	△47.4	△25.0	△35.3	△60.0	△61.1
在庫 D・I	今期実績	11.7	21.1	4.2	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	△37.8	△47.4	△50.0	△29.4	△20.0	△38.9
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	△29.6	△26.3	△33.3	△17.6	△35.0	△33.3
	来期見通し	△24.5	△21.1	△37.5	△17.6	△30.0	△37.5
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	△6.7	△5.9	0.0	12.5	△10.0	△35.7
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	22.5	5.9	47.8	18.8	20.0	7.7
	来期見通し	—	—	—	—	—	—